令和元年度第3回高崎市子ども・子育て会議 会議録概要

- 日 時 : 令和2年3月26日(木) 午後2時00分～午後3時30分
- 場 所 : 高崎市役所 本庁舎4階 庁議室
- 出席者 : 別紙のとおり
- 傍聴者 : 0人
- 会議に付した案件
 - ・ 第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画(案)について
 - ・ 幼保連携型認定こども園の設置認可について
 - ・ 特定教育・保育施設の利用定員について
- 配付資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 「第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果について」
 - ・ 資料1-2 「第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画」
 - ・ 資料1-3 「第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画(概要版)」
 - ・ 資料2 「幼保連携型認定こども園の設置の認可について」
 - ・ 資料2-2 「幼保連携型認定こども園の認可につき意見を聴くものに係る施設調書」
 - ・ 資料2-3 「高崎市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例(概要)」
 - ・ 資料2-4 「幼保連携型認定こども園の認可基準」
 - ・ 資料3 「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」
- 会議録 : 別紙のとおり

○ 出席者（委員）：15名

番号	所属団体等	氏名	当日 出欠
1	高崎市医師会 理事	新井 英夫	
2	高崎市市長会 副会長	飯野 茂	欠席
3	認定こども園代表（高崎市保育協議会認定こども園部会長）	石井 博	
4	高崎市母子等保健推進協議会 副会長	内山 美奈	
5	保育園代表（高崎市保育協議会保育園部会長）	粕川 泰彦	
6	元教育委員長、あすなろ学園学童クラブ代表	小見 勝栄	欠席
7	高崎市私立幼稚園・こども園父母の会連合会	小山 久美	
8	高崎市民生委員児童委員協議会 子ども福祉研究委員会 委員長	佐藤 貴江	
9	高崎市学童保育連絡協議会 会長	鈴木 宏輝	
10	高崎健康福祉大学 教授	千葉 千恵美	
11	公募市民	花岡 秀行	
12	高崎市保育協議会保護者会 会長	花田 聡	
13	公募市民	林 雅美	
14	幼稚園代表（高崎市私立幼稚園・こども園協会）	原 徳明	
15	高崎市心身障害者等連絡協議会 会長	深澤 アサ子	
16	高崎市PTA連合会 常任理事	星野 雅代	欠席
17	高崎市社会福祉協議会 会長	松橋 亮	欠席
18	日本労働組合総連合会群馬県連合会高崎地域協議会 副議長	山口 博之	
19	高崎市小学校長会 多胡小学校長	吉村 紀子	

○ 出席者（事務局職員）：23名

○ 会議録

1. 開会 (事務局)	<p>定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第3回高崎市子ども・子育て会議を開会させていただきます。それでは、会議の開会に先立ちまして、本日の会議は出席15人、欠席4人でございますので、高崎市子ども・子育て会議の開催要件を満たすことをご報告いたします。また、会議は公開となっておりますことを、併せて報告させていただきます。</p> <p>それでは、お手元の次第に基づきまして、進めさせていただきます。</p>
2. 会長あいさつ (事務局)	<p>はじめに、次第の2「会長あいさつ」でございます。本日は、会長が都合により出席されておられませんので、副会長に一言ご挨拶を頂戴したいと思います。副会長、よろしくお願いいたします。</p>
	<p>(副会長あいさつ)</p>
	<p>ありがとうございました。また、議事の進行につきましては、高崎市子ども・子育て会議条例第6条に基づき、会長により行われておりますが、同条例第5条第3項により、副会長に進行をお願いしたいと思います。副会長、よろしくお願いいたします。</p>
(副会長)	<p>それでは議事を進めさせていただきますが、次の議事に入る前に、高崎市子ども・子育て会議運営規則第3条第2項により、会議録署名人の指名をさせていただきます。私からは、委員Aをお願いしたいと思います。委員Aには、当会議の会議録が完成しましたら、ご署名をいただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。</p>
3. 議事1 (副会長)	<p>議事1「第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画(案)について」を議題といたします。第2期計画案につきましては、前回の会議におきまして事務局から案が示され、パブリックコメントを実施するとの報告がありましたが、本日はパブリックコメントの実施結果と、寄せられた意見等に対する市の考え方、またその意見等を受けて、最終的な第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画ができあがったようですので、このことについて事務局から説明をお願いいたします。</p>
	<p>(第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画に関するパブリックコメントの実施結果及び計画書案について事務局から説明を行った。)</p>
	<p>ありがとうございました。</p>
(事務局)	<p>ここで前回(12月25日開催)・前々回(8月28日開催)の会議において、委員の皆様からいただいたご質問やご意見などについて、担当課からご説明させていただきたいと思ひます。お答えさせていただきますご意見は、9件ございます。</p>
	<p>1件目は、委員Bからいただいたご意見です。「計画のうち、妊産婦健康検査や乳児家庭全戸訪問事業の「量の見込み」の数値について、延べ人数ではなく実人数として表記をしたほうが、実績の報告を受けた際にわかりやすいのではないか。」というご意見でございます。計画に記載する内容については、わかりやすい表現・表記とするべきではございますが、ご指摘の部分の表記については、国から示されている「市町村子ども・子育て支援事業計画における量の見込みの算出等のための手引き」において、各事業の量の見込み</p>

及び確保方策の数値・表記の設定方法が示されておりますので、その手引きに基づいて、第2期計画においても「延べ人数」での表記とさせていただきたいと思っております。

2件目のご意見は、委員Cからいただいたご意見で、「現行の計画（第1期計画）と第2期計画の違いについて説明をしてほしい。」というご意見でございます。現在策定作業中の第2期計画は、現行の第1期計画を引き継ぐかたちで計画の策定を進めさせていただいておりますので、計画内容について大きな変更はございません。今回の計画策定に伴って行った、ニーズ調査の結果に伴う量の見込みや人口統計などの数値に関する部分については、最新の状況に更新している状況でございます。また、幼児教育・保育の無償化など国の制度が変わったことによる計画内容の変更のほか、子育てなんでもセンターやこども救援センターなど本市の組織変更に伴う記載や子育てSOSサービスなど本市独自の事業について新たに記載しております。以上でございます。

3件目は、委員Dからいただいたご質問です。計画書の第4章22ページ「I-2-(1) 障害のある子どもへの支援体制の充実」に関連して、「市内で障害のある子どもは、何人くらいいるのでしょうか。」というご質問でございます。障害のある子どもについては、基本的には児童福祉法に基づく障害児通所サービスである児童発達支援サービスや放課後等デイサービスを利用している子どもとなります。今年度当初の平成31年4月1日現在の利用者数については、未就学児を対象とする児童発達支援サービスが195人、小学生から高校生までを対象とする放課後等デイサービスが773人、合計968人でございます。障害児の人数は年々増加しており、特に発達障害児や発達障害の疑いのある児童が増えてきている状況でございます。

4件目についても、委員Dからいただいたご質問です。計画書の第4章22ページ「I-2-(1) 障害のある子どもへの支援体制の充実」に関連して、「障害者支援SOSセンターばる〜んには、親御さんの就労や子どもの相談が寄せられてきているか。」というご質問です。障害者支援SOSセンターばる〜んにおける今年度の相談状況については、2月末現在までに1,416件の相談が寄せられており、来所による相談が420件、電話による相談が996件となっております。なお、そのうち、育児に関する相談が21件寄せられており、障害のある子どもの療育に関する相談が16件でございます。また、教育に関する相談は10件寄せられており、障害のある子どもに関する相談は9件でございます。また、就労に関する相談は190件寄せられておりますが、障害のある子どもを持つ親の就労については1件だけでございます。ただし、就労に関する相談の殆どは本人の障害に関わるものであり、相談の背景にある家族等の情報については、前面に出てこない場合があるため、正確な数は把握が困難な状況でございます。

続きまして、5件目は、委員Cからいただいたご質問です。計画書の第4章22ページ「I-2-(1) No.3 放課後等デイサービス事業」に関連して、「実際の事業数や在籍者数、どういった指導内容なのか。」というご質問です。高崎市内にある放課後等デイサービスの事業所数については、直近の令和2年3月1日現在61箇所、総定員数610名でございます。在籍者数については、直近の令和2年2月末実現在では799人の障害児が利用しております。なお、サービスの利用にあたっては、市内の事業所だけに限らず、隣接する市外の事業所も利用することができますが、詳しい内訳は把握しておりません。放課後等デイサービスの指導内容については、療育が必要な児童や生徒に対し、生活能力向

上のための訓練や社会交流の促進などの支援を実施しております。利用に際しては、一人ひとり毎に支援計画を作成し、支援計画に基づき必要な支援を行っております。

6件目は、委員Eからいただいたご質問です。計画書の第4章22ページ「I-2-(1) No.3 放課後等デイサービス事業」に関連して、「送迎等を含めたサービスの内容や市からの補助を含めた運営状況はどのようなものとなっているのか。」というご質問です。放課後等デイサービスのサービス内容については、先ほどご説明させていただきましたが、送迎におきましては、それぞれの事業所が任意で選択できるものとなっております。なお、送迎する場合には、基本報酬のほかに送迎加算が支給されるものでございます。送迎事業所につきましては、先ほどの61箇所のうち概ね半分程度と把握しております。次に、放課後等デイサービス事業所の運営については、原則障害児通所給付費と利用者負担額で賄われており、市からの補助金等は給付しておりません。なお、給付費については公費となり、国が1/2、県と市がそれぞれ1/4ずつ負担しております。また、利用者負担額については原則1割負担ではございますが、世帯の所得に応じた負担となっており、生活保護世帯や市民税非課税世帯は自己負担がなく、市民税所得割額28万円未満は月額4,600円が上限負担額となっており、それ以外の高所得の方については月額37,200円が上限負担額となっております。なお、高所得の方は9%ほどいらっしゃいます。残りの91%の方は、月額4,600円負担もしくは負担なしとなっております。

7件目は、委員Fからいただいたご意見です。計画書の第4章33ページ「II-2-(5) 男女共同参画の推進 No.3 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の推進」について「文中の『男性が主体的に』という文言は、時代的に不適切でないか。」というご指摘でございますが、所管する人権男女共同参画課と表現・内容について協議させていただき、高崎市第4次男女共同参画計画の記載に合わせ、本計画においても「男性も主体的に子育てや家事に関わることができるような講座の開催や」という表現に改めさせていただきたいと思っております。

8件目は、委員B、委員G、委員Hからいただいたご意見です。計画書の第5章45ページ「I-5(3) 幼児期の学校教育・保育の量の確保方策」に関連して、「公立幼稚園の幼保連携型認定こども園化について要望する。」というご意見ですが、公立幼稚園の認定こども園化については、現段階では第2期子ども・子育て支援事業計画に記載できる状況には至っておりませんので、今後も研究を重ね、関係部署などと検討してまいりたいと考えております。

9件目は、委員Iからいただいたご意見です。子ども・子育て会議について「過去に開催された会議において、委員から出た意見について、どのような進展・進捗があったか、資料などを作成し、議論の継続性をみえるようにしてほしい。」というご意見です。今年度に関しては、第2期子ども・子育て支援事業計画の策定期間と重なりましたが、議論の継続性という観点から委員Iのご指摘のとおり、次第や関係資料、担当課からの答弁だけでなく、今後は、前回会議を振り返るような資料の作成について検討していきたいと考えております。

寄せられたご意見に対する説明は以上となります。

(副会長)

事務局からの説明は終わりました。パブリックコメントを実施したところ、10名から

	<p>12件のご意見が寄せられたとのこと。また、9名の委員の皆様から寄せられたご意見についても事務局から回答をいただきました。委員の皆様からご意見などはございませんか。</p>
(委員B)	<p>最後事務局から説明のあった「今後は、事業計画の概要版を修正する」というのは、どういった意味でしょうか。</p> <p>もう一点は、パブリックコメントの中の学校給食費の無償化に関する意見についてです。学校給食費の無償化についての要望に対して、市は、「学校給食法11条第2項において食材料費については保護者負担と定められております。」と回答しています。ただ、この方はそういった国の方針を分かった上で、パブリックコメントで意見を述べているのだと思います。少し答え方が不親切でないのかと感じます。</p>
(事務局)	<p>概要版の修正については、今後計画期間中の変更があった場合に、概要版を修正するかたちで公表するという意味でお伝えをさせていただきました。</p> <p>また、学校給食費の無償化についてですが、現状では、本市は食材費のみで対応をしているというところがございます。経済的な理由で負担が大きいご家庭については、就学援助制度により支援してまいるというところがございます。ご理解いただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
(委員B)	<p>そういったお答えになることはしょうがないと思いますし、承知はしているところがございます。ただ、パブリックコメントの市の考え方については、もう少しコメントを出した方に理解をいただけるような回答の仕方を検討してほしいと思います。よろしく願いいたします。</p>
(委員I)	<p>私は、認定こども園や保育園の保護者会の代表として参加をしており、保護者の意見をまとめるということを目的としてアンケートを実施いたしました。高崎市の施策として今後検討いただきたいことを調査しましたので、ご紹介します。まず1点目は、交通安全についてです。送迎をする際の保育園周辺での交通安全について懸念する意見が多くみられました。昨今、痛ましい事故というものもありましたし、こういった意見が多く出ているのかと思います。2点目は、室内の遊び場が欲しいというご意見です。前橋にあるような遊び場を高崎市でもぜひ検討していただきたいと思います。そのほかは、インフルエンザワクチンの無償化や、希望する保育園に入園できなかった際の理由の開示等の要望が出ておりました。第2期子ども・子育て支援事業計画への反映というのは難しいかと思いますが、こういった意見があることを念頭に置いた上で、施策の検討をいただきたいと思います。</p>
(事務局)	<p>交通安全の関係でございますが、痛ましい事故を受けまして、7月から、各園において周辺の危険箇所を挙げていただき、順次改善を行っている状況でございます。また、希望の園に入れなかった場合の理由の開示につきましては、どういったかたちで開示を行うべきかというところも含めながら、今後検討させていただければと思います。</p>

	<p>次に、室内の遊び場について回答させていただきます。子育て支援担当部は直接の所管ではございませんが、全体的な市の考え方として、その必要性は共有しているところでございます。具体的なことはお答えできかねますが、検討段階には入っていることだけお答えさせていただきます。と思います。</p> <p>また、インフルエンザの無償化につきましては、所管課に確認し、後日回答させていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
(委員G)	<p>先ほどのアンケートは、全保護者を対象に約7,730部のアンケート用紙を配布して、インターネットを通じて回答をいただきました。結果について、私のほうからも補完させていただきたいと思います。子どもの安全という点で、危険と感じた箇所について「遊び場の中で大きな子どもが小さな子どもの遊具で遊んでいてひやひやした。具体的には、観音山ファミリーパークやケルナー広場などがあります。」といったご意見がありました。同じ子どもでも遊ぶものは違いますので、所管課でルールの設定や管理を徹底させていただきたいと思います。また、室内遊び場についても、総合保健センターで毎年実施をしているキッズパークを常設していただきたいと思います。先ほど、事務局からも前向きな検討をしているといった回答をいただきましたが、パブコメの中でも今回の保護者アンケートの中でも要望は出てきていますので、大きく舵を切って前橋に負けない遊び場を作りたいと思います。最後になりますが、厳しいご意見だけではなく、「高崎市は、他県と比較して非常に子育て支援が手厚い。」というご意見もございましたので、ご紹介させていただきます。以上です。</p>
(副会長)	<p>ありがとうございました。とても貴重なご意見がたくさんあり、こういったご意見をふまえて、第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画を事務局案のとおりご承認いただけるようであれば拍手をお願いいたします。</p> <p>(委員から拍手)</p> <p>ありがとうございます。皆様の拍手をもってご承認いただいたものといたします。それでは、以上で第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画案についての協議を終結いたします。</p>
3. 議事2 (副会長)	<p>次に議事2「幼保連携型認定こども園の設置認可について」を議題といたします。このことについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(3施設の設置認可について事務局から説明を行った。)</p> <p>事務局からの説明は終わりました。説明のありました3件の設置認可について、ご意見等はございますか。</p> <p>ないようですので、全ての申請について本会議で了承することといたします。以上で幼保連携型認定こども園の認可に関する調査審議についての協議を終結いたします。</p>
3. 議事3 (副会長)	<p>次に議事3「特定教育・保育施設の利用定員について」を議題といたします。このことについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(利用定員の設置について事務局から説明を行った。)</p>

	<p>ありがとうございました。認定こども園4施設、幼稚園1施設について、それぞれ利用定員を設定したいとのことですが、委員の皆様からご意見やご質問などはございませんか。</p>
(委員F)	<p>定員を変えるというのは、面積基準を満たしている前提ということでしょうか。増改築を伴ったりするものなのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>それぞれ利用定員に応じて、必要となる面積が定まってくるものですので、それを満たした上で、各施設の状況に応じたかたちで定員を設定させていただいております。</p>
(副会長)	<p>他にございますか。</p> <p>ないようですので、特定教育・保育施設の利用定員については、事務局案のとおり本会議で了承することといたします。以上で、特定教育・保育施設の利用定員についての協議を終結いたします。</p> <p>以上で、本日予定していました議事は終了いたしました。審議の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは進行を司会に戻します。</p>
4.その他 (事務局)	<p>副会長、議事の進行、ありがとうございました。</p> <p>続いて次第の4「その他」といたしまして、事務局から報告をさせていただきます。第2期高崎市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたりまして、令和元年度になり計3回の会議を重ねて参りました。この間、ニーズ調査の実施や事業計画書の策定、また幼保連携型認定こども園の認可や特定教育・保育施設の利用定員の設定等について、皆様には熱心にご審議いただき、来月からはいよいよ次期計画がスタートすることとなります。委員の皆様には、会議の円滑な運営にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、来年度以降の会議についてでございますが、第1期事業計画の総括や、第2期事業計画の進捗管理、幼保連携型認定こども園の認可、子ども・子育て支援に関する総合的な推進等に関する事項などについて、ご協議・ご審議いただくことになっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
(委員C)	<p>いくつかよろしいでしょうか。</p> <p>この子育て会議は、幼保連携型認定こども園の認可について私たち委員に諮問していて、今までに34園認可されているわけですが、ほとんどの園が幼稚園や保育園からの移行ということであります。過去には、完璧に設定基準はクリアしていないけれども認可するという案件があったと思いますし、その場合、今後10年の間に検討をされるのだと思いますが、そういった案件のその後の状況をお聞きしたいと思います。</p> <p>また、大事な案件の会議なので、欠席されている委員さんについても今後名前等を報告いただければと思います。</p>
(事務局)	<p>ご質問のとおり、幼稚園・保育所からの移行の場合は、5年を目途に認可に対する特例</p>

	<p>が出ていたところでございます。当然、それをもって認可をさせていただいた経緯がございますが、内閣府から今後10年間を目途に新たな設置の基準を示すような通知がありました。実際には未だ基準が示されておりません。内閣府からの通知が出た段階で、対応を考えてまいりたいと思っております。</p>
(委員C)	<p>今回の子育て会議の中で、認可をしたわけでございますが、万が一不相当であると認めるときにどうすればよいのでしょうか。5年の中で万が一欠陥があった場合にどうすればよいのでしょうか。私たちが責任を取るのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>認可の時点で、特例をもって認可をしているところでございますので、その時点で基準をクリアし、認可は認められたものとして考えております。その後の基準については、後ほど国からということになります。そういったことを考えますと、この時点では、高崎市として問題はないと考えられるのではないかと思います。</p>
5. 閉会 (事務局)	<p>以上をもちまして、令和元年度第3回高崎市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。本日はご多忙のところご出席をいただき、誠にありがとうございました。会議を閉会いたします。なお、今回使用いたしました資料番号「2」「2-2」「2-3」「2-4」「3」の資料につきましては、個人情報等記載のため回収させていただきますので、そのまま、机の上に置いてください。よろしくお願いいたします。</p>